

韓国実習での学びと葛藤

文教育学部言語文化学科 3年

田中 真美

1.参加の動機・目的

大学生のうちに、海外の大学で様々な国の学生と共に生活を送ってみたいと思っていた。また、以前韓国を訪れた際には現地の人とは交流する機会がなかったが今回は滞在中に韓国語を学べるため、韓国人の人とコミュニケーションすることを期待していた。経済は専門ではないが、マーケティングには興味があり、さらに今後の経済を担うであろう世界の若者たちと共に経済を学ぶことは貴重な体験だと思ったためぜひ参加したいと思った。

2.成果

2.1 多文化交流実習 I

経済は私の専門ではなく、担当の教授もドイツ人の先生ということで語学力にも自信はなかったが、せっかく海外の大学で授業を受けるのだから何事もチャレンジしてみたいと思い、**International Marketing**の授業を選択した。初日の授業では講師の話はなんとか理解できるものの、ビデオで流れる英語を聞き取るのは難しく、また何より自身の思っていること、考えていることを英語で表現することが日本語のように瞬間的にできずに悔しかった。最終日にはぺらぺら英語で意見を述べられるようになったといえそうではないが、多少なりとも語学力の点で進歩はあったと思う。また、毎回グループディスカッションを行ったが、そこでそれぞれの国でのある企業の位置づけが異なっていたり似通っていたりして、相違点を見つけるのも面白かった。日本企業の **TOYOTA** や **Nintendo** をほかの国の人がどう思っているかを知るのも面白く、**Nintendo** のブルーオーシャン戦略というのが特に興味深かった。グループでプレゼンテーションを作るときに、互いに初対面ながらみなで英語だったり韓国語だったり、たまに日本語だったりを使い、協力してひとつのものを作り上げられたのにはとても達成感を感じた。最後の授業で、今後の東アジアについてディスカッションをし、経済協力だったり安全保障の問題で手を取り合うということ、実際に日本、韓国、中国の大学生が思いあって話すことに将来への希望のようなものを感じた。

2.2 多文化交流実習 II

最初は英語の講義でさえ自信がないのに韓国語を英語で習うなんて私は大丈夫なのかと大変不安に思っていた。私は日本で韓国語を学んだことはなくこの実習に参加することが決まってから独学でハングルを勉強した程度で、それでもまだ全然ハングルも読めないレベルだったので初心者講座を選択した。しかし実際に講座が始まると新しい言語に触れるのは大変面白く、しかも韓国にいてその日学んだことを放課後さっそく使用できる環境にあったので、毎日韓国語の講座が楽しみだった。最初まったくわからなかった街で見る言葉が、ハングルが読めるようになり、少しずつ単語を覚えることでわかるようになり、お店で四苦八苦しながら韓国語で注文したり質問したりできるようになったことに感動した。せっかく覚えた韓国語なので、日本でも朝鮮語の授業を取ってもっとしゃべれるようになりたいと思う。講座の内容としては最後に皆でパーティーをしたのがとても楽しかった。

2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1 現地の人々と触れて

韓国でコンビニやスーパーなどの店に行き行って驚いたのが、皆無愛想な接客で、しかも勤務中にスマートフォンを普通に使っていることだった。無愛想な接客はまだわかるが、客の前で堂々と暇つぶしをするなんて日本ではなかなか見れない光景であり、私の日本でのバイト先が接客には非常に厳しい店だったのでとてもセンセーショナルだった。さらに若い人や老人、店の種類も関係なく皆そうなのだ。最初は失礼だな、と思っていたのだが、だんだんとそれが日本人のように時間に追われてせかせかせず、自由に過ごしているということがわかってきて、私も気を張らずに済み、そういう韓国の文化や国民性に好感を持つようになった。

2.3.2 地下鉄の利便性

韓国に来たのは今回で2度目だったが、依然と同様に韓国のテクノロジーの高さに大変驚いた。何より地下鉄の利便性だ。日本では電車が人身事故やトラブルで停滞することはしょっちゅうだが、私が滞在している間ほぼ毎日韓国の地下鉄を利用していたがそのようなことは1度も起こらなかった。さらに韓国語以外の表記やアナウンスが日本より充実していたため、韓国語を理解できずとも利用に困ることがほとんどなかった。日本に帰るとさっそく電車が遅延していたのだが、そのような場合日本語でしか掲示板に注意がされず、駅構内や車内のアナウンスも日本語のみなので、海外の利用者には大変不便だろうなと思った。

2.3.3 反日・反韓への葛藤

私自身は去年韓国に行き、今回も韓国に行くくらいなので韓国は嫌いではなく、日本で流行しているK-POPも好きだが、K-POPに反対している人もいて、マスメディアの在り方について改めて考える必要があるという意見は日本でも過熱している。そういう意見や抗議は一部ではあるが、韓国へ行く前はそのようなニュースを見たら韓国に行きたくなくなるのではないかと不安だったので敢えて見ず、深く考えずに過ごしていた。実際韓国に来て、自分が日本人だから嫌に思われたりするのかな、と少しは思ったものの韓国の人たちはみな普通に接してくれた。日本が好きだからと日本料理のレストランを営むお婆さんと話せばとてもうれしそうにしていた。日本語も英語も全くしゃべれない、カルビのお店のおじさんお婆さんに韓国語で話しかければ楽しそうにいろいろなことを教えてくれた。また、クラブへ行けば日本が大好きで日本に留学して、日本語を使って空港で働いているという韓国人の男性にも会った。そうやって日本が好きだと言ってくれる素敵な韓国人の人たちに触れて、私も韓国がどんどん好きになっていく一方で、寮に戻りインターネットに接続してYouTubeといった動画サイトで韓国のミュージシャンの動画を開けばそこには日本人の心無い中傷の言葉。韓国のことが好きになった分とても悲しかった。きっとこれの逆の場合もあるのだろう。確かに領土の問題だったり、なかなか折り合い点が見つからなかったり、歴史的に対立する面もまだまだあるし、どちらかの国が譲るという話でもないので解決が困難な問題もある。そこで私が思いだしたのは、韓国実習へ行く前に大学で受けた講義で学んだことだった。国と国では協力や解決が難しい国際問題でも、対人地雷禁止条約に代表されるような市民の手による国際協力がこれからの国際社会で大きな役割を果たすというものだ。このことは頭では理解していたが、自身がその市民の役割を演じていることが韓国にいてわかったのだ。私が直面した対日や対韓という問題も、市民レベル、個人レベルで交流すれば互いのいいところも見えてくるし、嫌だなと思っていたこともそれは国民性だったり文

化によるものでなんら意図はなかったりということがわかる。何よりその国の人と仲良くなれば、国が嫌いということにはならないのではなかろうか。韓国に限らずこれからは先入観に囚われず偏見を持たないようにし、様々な角度から国際的な問題を捉えていきたいと思う。

3.まとめ

海外の学校で様々な文化背景を持つ学生と共に過ごすのはこの韓国実習が初めてではなかったが、今回の実習を通してさらに海外で生きることに憧れを抱くようになった。そのためにはもっと語学力を磨く必要があるので、もっと英語の勉強をやろうと思う。今後の大学生活の中で海外に長期滞在する機会があるかはわからないが、自分の将来の選択肢の中に海外で働くことも含まれるようになった。機会があれば大学生のうちにも海外の大学に行ってみたいが、韓国はもう2回ほど行ったので次は他の国へ行ってみたい。EU圏の人々のアイデンティティに関心があるので、EU加盟国に行き、実際人々に触れながら学んでみたい。その場合資金面が障害になりがちだが、今回のショートステイ・ショートビジットのような支援があればもっと積極的に海外へ行けるので、このようなものをどんどん利用していきたいと思う。